

令和8年度 第2回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

1 日 時 令和8年7月30日(木) 18:30~20:20

2 会 場 とかちプラザ 3階 会議室 304

3 出席委員 山口 直哉、伊東 健太郎、斉藤 準、中村 厚喜夫、鳴海 亮、
今野 敏幸、藤森 元恵、岸田 智子、青田 善弘、久保田 博己、
高山 直保、齊藤 喜彦、三浦 真希子、深津 真悠、佐藤 康則
(以上15名、敬称略)

4 事務局 帯広市教育委員会教育長 村松 正仁、生涯学習文化室長 天池 文彦、ス
ポーツ室長 佐藤 真樹、企画総務課長 高橋 肇、生涯学習文化課長 米
通 朋樹、児童会館長 佐藤 智紀、百年記念館長 奥村 哲秋、生涯学習
文化課長補佐 金須 健裕、企画総務課総務係主任補 田中 菜々子、生涯
学習文化課生涯学習係主任補 濱 しおり、生涯学習文化課生涯学習係係
員 佐々木 美希
(以上11名)

5 参 加 者 帯広市教育委員会教育委員 藤澤 郁美、
帯広市教育委員会教育委員 柳川 久、
おびひろ七夕フェス実行委員会

6 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

①意見交換会

②生涯学習施設の新たな料金設定の改定案について

③会議等出席報告

(3) 閉会

7 議事要旨

(1) 意見交換会

① 参加者自己紹介

② 帯広市教育委員会 教育長 村松 正仁による講話

変革期を迎えた現在の学校教育の状況や、コミュニティ・スクールをはじめとし
た学校と地域のつながりの重要性について述べた。また、人生100年時代を見据
え、学校卒業後も学び続けることの大切さに触れ、学校教育と社会教育を連携さ

せていくことの大切さについて話した。

③ おびひろ七夕フェス実行委員会による活動紹介

おびひろ七夕フェス実行委員会からは帯広畜産大学の学生と星槎国際高等学校の生徒の2人が参加し、パワーポイントの資料を用いて設立の経緯の説明や活動の紹介を行った。

④ 教育長及び教育委員、若者団体との意見交換

若者が中心となって取り組むおびひろ七夕フェスの活動事例をもとに、学校・地域・世代間のつながりの重要性について意見が交わされた。実行委員会からは、市内の学校や地域団体への積極的な働きかけによってつながりが広がっていった経緯が紹介され、意見交換では、出席委員から、若者が地域で活躍する姿が子どもたちの将来像につながるよう期待を込めて実行委員会の取組にエールが送られた。また、出席委員からは、町内会との連携による取り組みが紹介され、大きなことではなく小さな積み重ねが地域の広がりにつながるという意見も出された。さらに、活動の持続可能性に向けて、参加者のモチベーションの維持や世代をつなぐハブとなる人材の重要性、やらされ感のない自発的な参加を促すサポートのあり方についても意見が交わされた。

最後に教育長が、大人も子どもも生きがいを持って取り組むことが社会教育につながるという思いや、子どもたちが自ら考え決めることを大切にこれからの新しい教育スタイルを追求していかなければとの思いを述べるとともに、今度は学校と社会教育というテーマのディベートで掘り下げていけると楽しいかなと期待を示す形で総括した。

(2) 生涯学習施設の新たな料金設定の改定案について

事務局より説明。その後、質疑応答を行った。

○委員長

料金が上がるということで、胸も財布も痛いところではある。また、料金が上がることで利用率が下がるのではないかとも思うところ。使う側の身からすると、安い方がいいなと思う。他町村だと町民割、村民割があるのだろうとか、ちょっとモヤっとする気持ちもある。

老朽化対応を含めた改修やかちプラザだと駐車場の問題とか、あとは水場もきれいになってくれたらいいと思う。地域の人が社会教育施設を気持ちよく使える環境になるといいなと感じるところ。

○委員

素朴な質問だが、この場は何かを協議するための場であるのか？

○事務局

この場で、みなさんの賛成・反対の総意を得たいというよりは、それぞれの委員の思っていること、感じていることなどの率直な意見をお話しいただければと思う。賛成・反対といった意見もあれば承る。

○委員

この場で出た意見がどこかに伝わって、参考にされるという理解でよろしいか？

○事務局

まずは我々生涯学習部として受け止めて、全体としては市の財政部局でやっているものであるから、そことの共有はあるかなと思う。

○委員

料金について、利用者としては上がらない方が嬉しいというのは、みなさんも思うところだと思う。ただコストを回収しなきゃいけないというのもそのとおりだと思う。

原則はコスト回収率 100%で、今は料金を上げても 100%にはならないとのことだが、それは他市町村の施設と比較して割高と感じられる部分を下げたがために 100%にならないということか？

○事務局

一部はそのとおり。他施設と比較し上げていないケースもある。最大でも 3 割まで上げるとというのが一つの上限。(現行の 1 時間あたり料金が 500 円以上の場合) それだけ上げてもコスト回収率が 70~80% までしかいかない施設はいっぱいある。単純に 50% を 100% にしようとしたら料金が 2 倍になるので、そこは激変緩和措置を講じている。コスト回収率だけを考えたら 100% にしたいところだが、そうともいかない実態があるので、こうした回収率に落ち着いている。

○委員

できることとしては利用者の数を増やすとか、そのためにはどうしたらいいかを検討していくことか？

○事務局

一番良いのは利用者が増えてそれに応じて収入が上がるということではある

が、例えばとかちプラザなど、もうすでに結構使われていて予約が取りにくい施設もあるので、そのバランスが難しいところがある。稼働が低い施設であれば、より多く使っていただくというのがまず目指すところかなと思う。

○委員

プールやスケート場などスポーツ施設のコスト回収率が低いようだ。

○委員長

具体的な数値は無くてもいいが、スポーツ施設や文化施設の使用率など、事務局として何か見解はあるか？

○事務局

このコスト回収率はあくまでお金の問題のことで、例えばプールやスケート場は低くなってるが、水や氷を使うところはかなりお金がかかってしまう。こういった施設の稼働率が低いと言われてれば、今は数字を持ち合わせていないが必ずしもそういうことはないかと思う。スポーツ施設は比較的使われているかなど。ただ、使用される時期が限られている施設もあり、年間を通して使われていると言われると…。その一方で維持管理にはお金がかかる。

○事務局

利用者数が変わらず横ばいだとしても、物価高騰で施設の維持経費は上がっているんで、コスト回収率は低くなる傾向があるかと思う。例えば文化ホールでも、あれだけ大きい施設となると相応の燃料代、電気代がかかる。

その他、社会教育施設そのものに関する意見についても委員より発言があった。

(3) 会議等出席報告

研修会への出席について報告。

〈意見・質問なし〉

以上